

建設環境委員会資料

1 令和3年度 国の施策及び予算編成等に係る重点要望について

(1) 提案・要望項目、内容 …………… 別途

(2) 説明資料 …………… P 1

令和2年10月23日

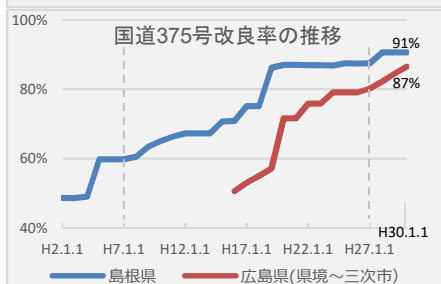
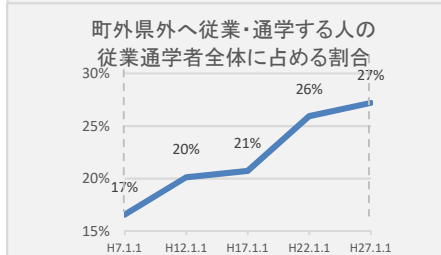
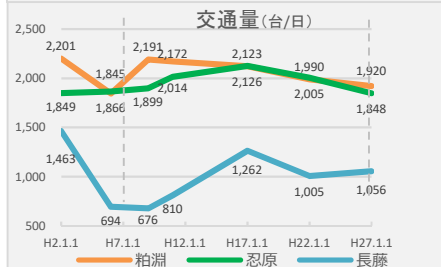
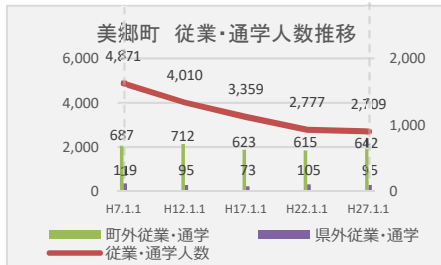
土 木 部

1. 地方が実施する事業の推進

- ◆ 地域の生活に欠かせない道路や下水道等の整備、住民の安全・安心を確保するための土砂災害対策や河川改修、道路斜面の落石対策、子どもの交通安全確保対策、地籍調査等が着実に進むよう、防災・減災、国土強靱化のための措置を含む予算を十分確保し、必要な事業が多く残された地方に重点配分すること
- ◆ 施設の長寿命化対策について、国庫補助の適用範囲の拡大と十分な予算の確保を図ること

道路改良の進展に伴い、町外従業・通学の割合が増加

▶ 地域の人口減少の抑制のためにも、道路整備は効果あり



通勤のため大田市へ通っていますが、所要時間が短縮したため、朝夕の通勤時間に余裕を持つことができます。

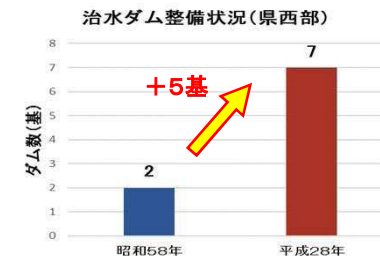
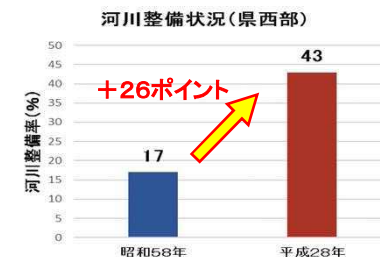
親が高校生の時には、寮生活を送っていました。現在は道路改良が進み、通学時間の短縮でバス通学による通学が可能になりました。

河川整備やダム建設により、豪雨被害が減少

昭和58年豪雨との比較

昭和58年7月豪雨	平成29年7月豪雨
332mm(浜田)	370mm(波佐)
91mm(浜田)	82mm(波佐)
107名	なし
約3,600億円	約64億円
3,041戸	1戸
6,917戸	13戸
死者行方不明	なし
被害総額	被害家屋(全半壊)
	床上浸水

(被害内容は県西部分)



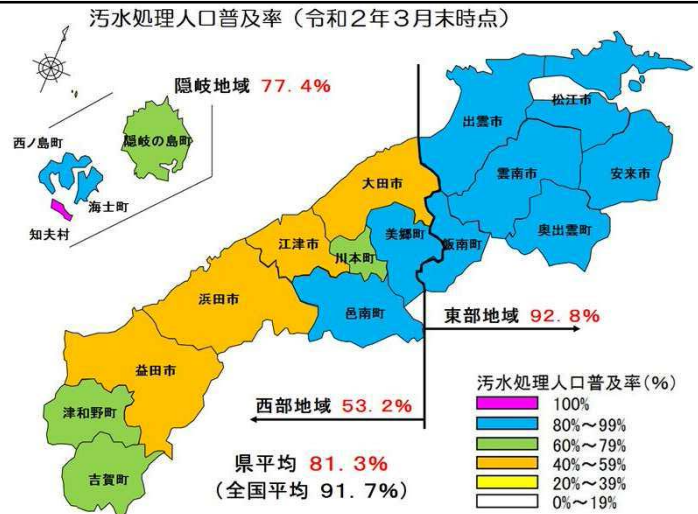
河川整備の一層の推進が必要

令和2年7月豪雨及び8月7日からの大雨による洪水の状況



▶ 平成30年7月豪雨からわずか2年で、再び江の川及び支川で洪水が発生

汚水処理人口普及率の低い県西部地域の未普及対策が必要

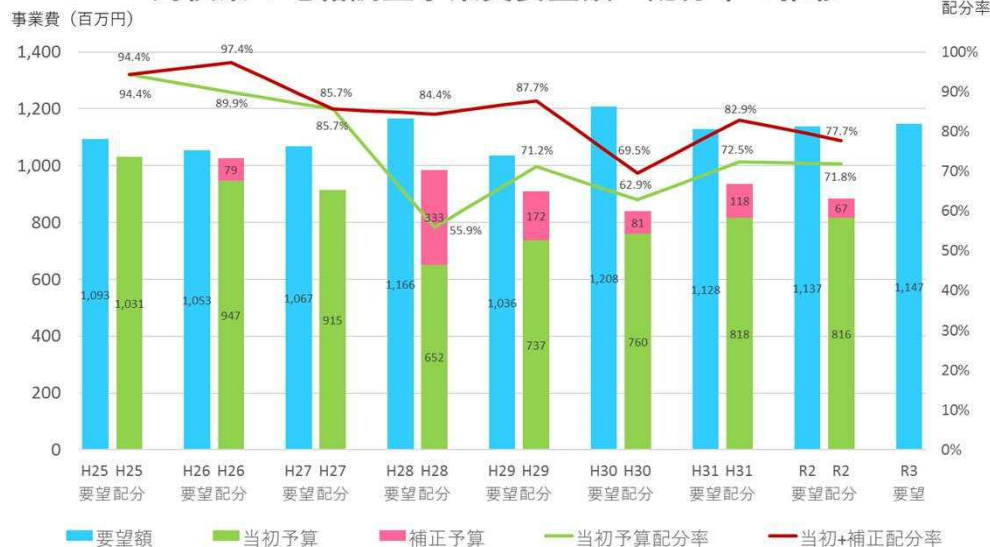


- 都市部からのUターンを決断されるときに、下水道や浄化槽の完備は重要な条件のひとつ

インフラ整備の円滑化のためには地籍調査の促進が必要

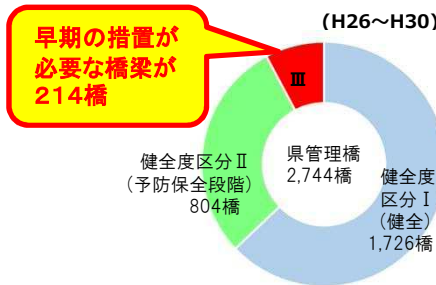
- 令和元年度末の島根県の調査の進捗率は52%
- 令和2年度当初予算配分額は市町要望額の71.8%

島根県の地籍調査事業費要望額・配分率の推移



早期の予防保全への転換で修繕費用の削減が実現

道路橋の1巡目点検結果 (H26~H30)

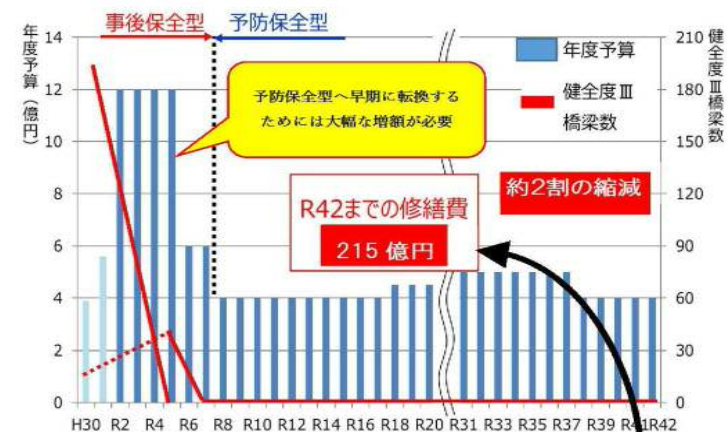


道路橋の損傷事例

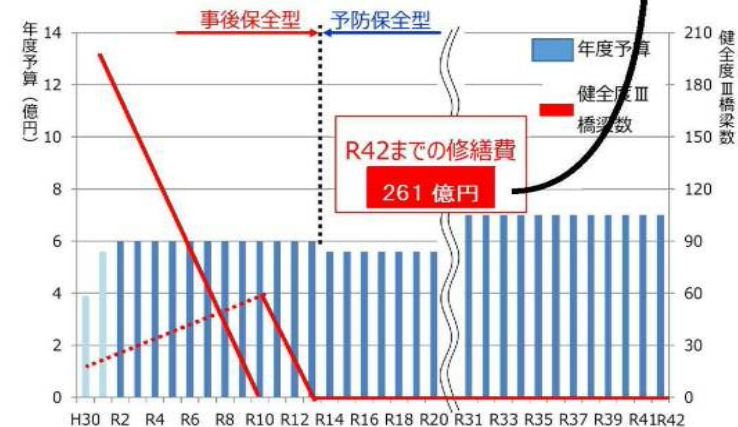


早期修繕の維持修繕費削減効果

【令和5年度までに、1巡目の点検で健康度Ⅲの施設を修繕した場合】



【令和10年度までに、1巡目の点検で健康度Ⅲの施設を修繕した場合】



防災・減災、国土強靱化のための緊急対策の推進

- 『防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策』に続き、中長期的かつ計画的に国土強靱化の取り組みを継続すること。
- 『土地利用一体型の浸水対策、高速道路4車線化、老朽化対策』を対策の対象に追加すること。

【防災・減災、国土強靱化の取組による成果】

➤ 道路法面对策

長期間の全面通行止め、人身事故、物損事故などの重大な災害・事故を防止



➤ 河川内土砂撤去・樹木伐採

対策前



対策後



【土地利用一体型の浸水対策による成果】

➤ 水防災事業（宅地嵩上げ）

外水による溢水、浸水を防止



【雪に脆弱な高速道路暫定2車線区間】

➤ 信頼性向上のため4車線化を！

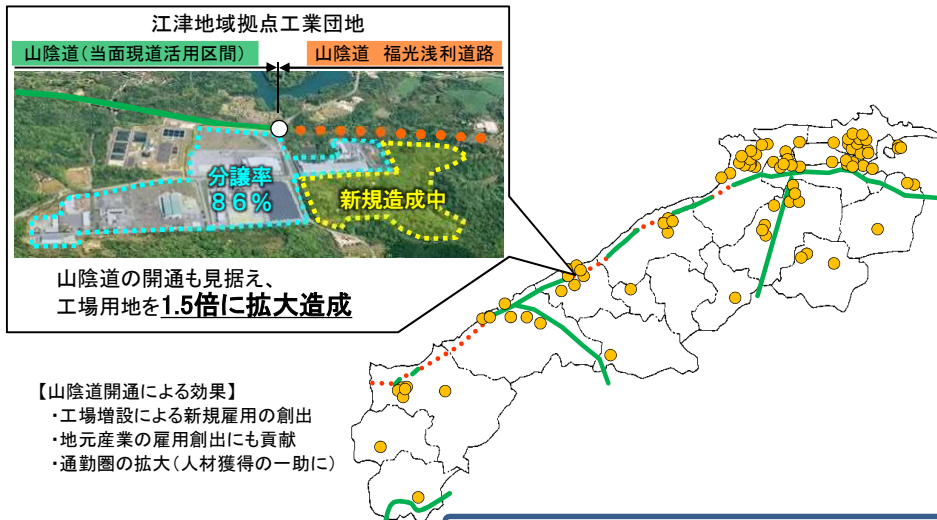
ネットワークの代替性の確保



2. (1) 高速道路をはじめとする地方の道路整備の推進

◆ 高速道路沿線に企業が進出

平成20年度以降、進出または増設した県外企業138社のうち約9割の企業が高速道路沿線に立地



◆ 大規模災害時の代替路としての山陰道

「平成30年7月豪雨」では、山陽道や中国道が被災し、大型トラックは山陰方面を迂回した。高速道路ネットワークの多重性の観点からも山陰道の早期整備が必要

山陰道の断面交通量(大型車)

<H29.7月平均> <H30.7.8(日)>
約2,000台 約8,000台 (約4倍)

※国土交通省資料より

※山陽道(河内～広島):
7/6～7/14.6時まで通行止
※中国道(北房～新見):
7/6～7/9.8時まで通行止

迂回した大型トラックで一般道が渋滞



撮影日時:H30.7.8(日) 19時

益田～小月間の状況

※()は総延長に対する進捗率

	総延長	供用済	事業中	計画段階評価済	計画段階評価中	未着手
小月～萩	約60 km	21 km (35%)	14 km (23%)	—	8 km (13%)	17 km (29%)
萩～益田	約70 km	—	14 km (20%)	15 km (21%)	5 km (7%)	36 km (52%)
計	約130km	21 km (16%)	28 km (22%)	15 km (12%)	13 km (10%)	53 km (40%)

参考:山陰道の整備進捗状況



鳥取県鳥取市～山口県下関市に至る山陰道は、ミッシングリンクが多数存在

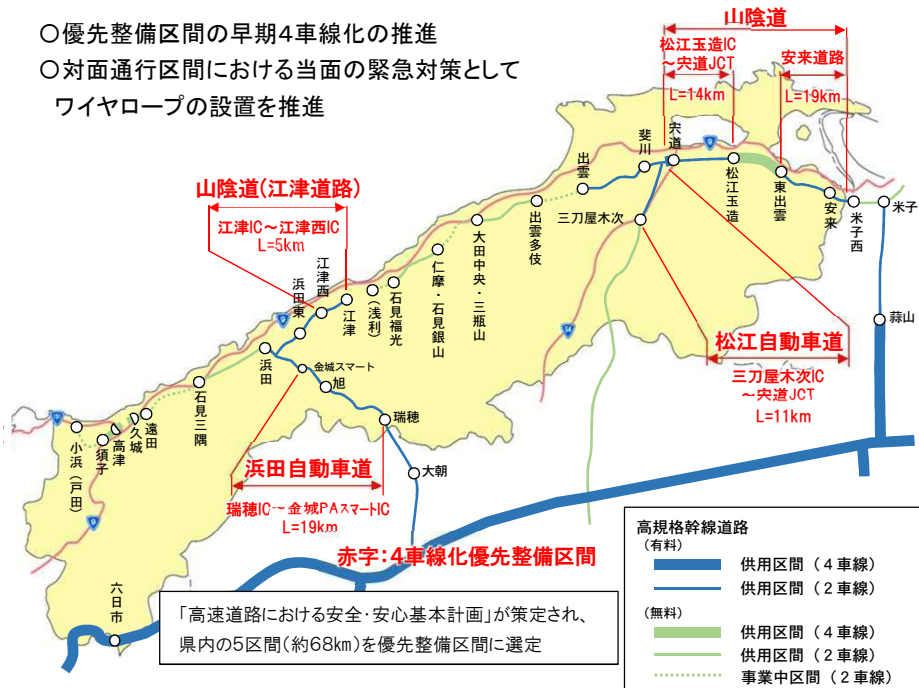


H30.7.8(日) 19時の通行止め状況(中国地方)

2. (2) 高速道路をはじめとする地方の道路整備の推進

◆ 高速道路(有料区間)の4車線化等の推進

- 優先整備区間の早期4車線化の推進
- 対面通行区間における当面の緊急対策としてワイヤロープの設置を推進



課題を解消し、安全・安心な高速道路に！

県内の供用済みの高速道路は8割以上が暫定2車線

ネットワークの代替性の確保



4車線化や付加車線整備が必要

事故防止



4車線化やワイヤロープ整備が必要

◆ 渋滞が著しい国道9号出雲バイパスの4車線化

一般国道9号出雲バイパスは、4車線で都市計画決定され、平成19年12月に暫定2車線で開通した。しかし、地域の発展に伴い交通が集中し、朝夕を中心に慢性的な渋滞が発生しており、早期の全線4車線化が必要。

島根県立中央病院 企業立地が進む斐川中央工業団地



至松江



出雲バイパスの渋滞状況(中野美保交差点以東を撮影)

3. (1) 斐伊川・神戸川治水事業の推進

- ◆ 流域全体の治水安全度確保に向け上流部のダム、中流部の放水路は完成
- ◆ 下流域の安全度確保のためには大橋川改修と中海湖岸堤防整備の推進が必要
- ◆ 斐伊川・神戸川治水事業に関連する県管理河川の改修を着実に実施するためには、防災・安全交付金による国の支援が必要

治水計画の考え方

上流・中流・下流でそれぞれ機能を分担し、流域全体の治水安全度を高めます

2 斐伊川放水路の建設と斐伊川本川の改修



中海・宍道湖への洪水の流入量を減らすため、放水路を建設し斐伊川から神戸川へ洪水の一部を分流します。
洪水を安全に流すため、神戸川の川幅を拡げ、斐伊川本川の改修も行います。

斐伊川放水路 (H25完成)



3 志津見ダム (H23完成)

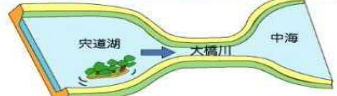


下流へ流れる洪水を調整するため、洪水を一時的にダムに貯留します。

尾原ダム (H24完成)



1 大橋川改修と中海・宍道湖の湖岸堤防の整備



洪水を安全に流すため、中海・宍道湖の湖岸や大橋川に堤防を築きます。
大橋川の断面が不足する箇所では、掘削や拡幅を行います。

向島護岸 (H30.3完成)



令和2年6月に一部運用開始した上追子排水機場 (松江市街地内水排除対策)

(R2.5撮影)



3. (2) 江の川治水事業の推進

- ◆ 平成30年7月豪雨・令和2年7月豪雨と**2年間で2度**もの豪雨災害が発生
50箇所も同一箇所が浸水し、浸水被害を受けた沿川住民からは**河川整備を望む多数の声**
- ◆ 江の川(島根県側)の堤防整備率は**15%**と全国の整備率の**1/4以下**。堤防未整備率は**48%**と全国と比べ**8倍**
- ◆ **ハード対策(堤防整備、水防災事業)箇所**を加速的に整備し、事業箇所の早期完成と未着手箇所の新規事業化が必要

沿川住民からの声

「ここは40、50年に1度は洪水がやって来るといわれ、覚悟してきたが、この頻度だとやれん...」

住民の助け合いも高齢化で限界がある。この状態が続けば地区から人が離れ、無人となる。

地域を不安に思う声やハード対策を望む声が多い！！

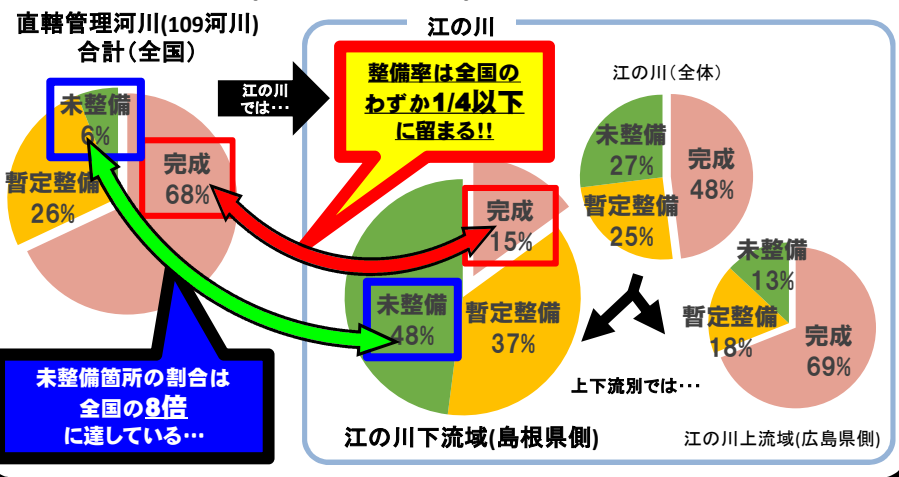
H30.7月豪雨による地域への影響

川本町八面地区では床上浸水が10棟発生し被災後、全住民が移転
集落が消滅...

H30.7月豪雨被災時

R02.8月現在

堤防整備率(H31.3末時点)



江の川 越水・溢水箇所

江津市役所 美郷町役場 川本町役場 邑南町役場

江津市役所 桜江支所

江の川

江の川の青水の影響により、県管理河川沿いの多くで浸水被害が発生

浸水家屋

H30.7月豪雨: 241棟
R02.7月豪雨: 76棟※
※R02.8.17 15時現在

76棟はH30.7月、R2.7月と続けて被災!!

2年間で50箇所も同一箇所が浸水

江の川(島根県側)の堤防整備率は**15%**と全国の整備率の**1/4以下**。堤防未整備率は**48%**と全国と比べ**8倍**

令和2年7月豪雨 川本町谷地区 浸水状況

H30.7月豪雨により多くの移転が発生

H30.7月豪雨時: 96世帯
R01.7月時点: 78世帯
↓ 18世帯(19%)減

H30.7豪雨 被災水位

2.6m程度
H2.7豪雨 被災水位
1.6m程度

H30.7月豪雨でも床上浸水

矢谷川 江の川

3. (4) 波積ダム・矢原川ダム事業

◆ 流域住民の安全・安心を早期に確保するため、ダム事業の推進が必要

波積ダム【本体工事推進】

◇ 本体工事、本体関連工事を推進する



洪水発生年月	原因	主な被害
昭和46年7月 (180mm/24h)	梅雨前線豪雨	浸水家屋102戸、全半壊19戸
昭和47年7月 (237.5mm/24h)	梅雨前線豪雨	床上浸水1,845戸、床下浸水1,021戸、 全壊157戸、農地浸水272ha ※江の川本川含む

矢原川ダム【生活再建対策推進】

◇ 引き続き、用地取得、付替道路工事などを推進する



洪水発生年月	原因	主な被害
昭和58年7月 (365.6mm/day)	梅雨前線豪雨	床上浸水895戸、床下浸水131戸、 全壊749戸、半壊305戸、農地浸水646ha



[参考] 29年7月豪雨において御部ダムが洪水調節効果を発揮

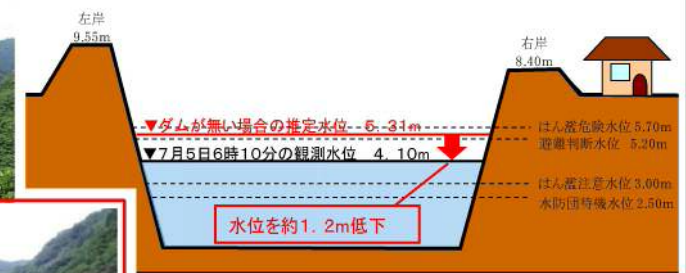
御部ダムでは最大約967m³/sの流入に対して、
下流河川への流量を最大で約651m³/sカット



御部ダムで上流からの流木を捕捉し、
下流への流出を防止



三隅川の三隅大橋水位観測点
付近で約1.2mの水位低下



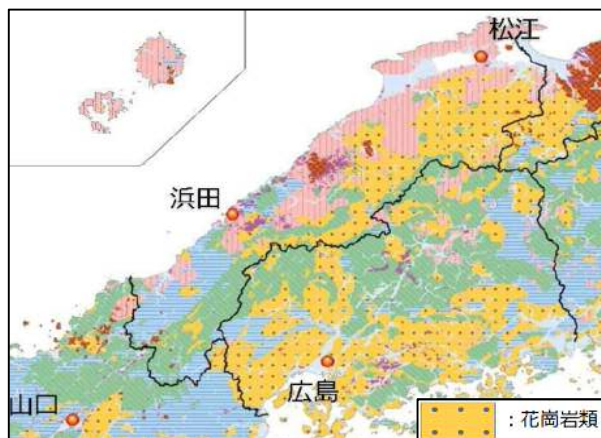
4.近年の気象変動により頻発・激甚化する土砂災害から人命を守る総合的な対策の推進

- ◆ 頻発・激甚化する土砂災害から人命を守り、安全で安心して生活できる地域づくりを実現するため、個別補助事業(大規模特定砂防等事業及び事業間連携砂防等事業)などの土砂災害対策予算を十分に確保すること
- ◆ 保全人家戸数やがけの高さ等の防災・安全交付金の採択基準を緩和すること

H30年7月豪雨で被災した広島県と同じ真砂土地帯が広く分布。危険箇所は全国で2番目

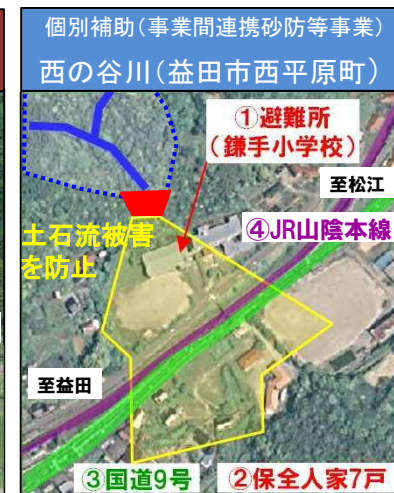
まだ、未整備箇所が多く存在。対策予算の確保が必要！

真砂土(花崗岩類)分布図



土砂災害危険箇所数・整備率

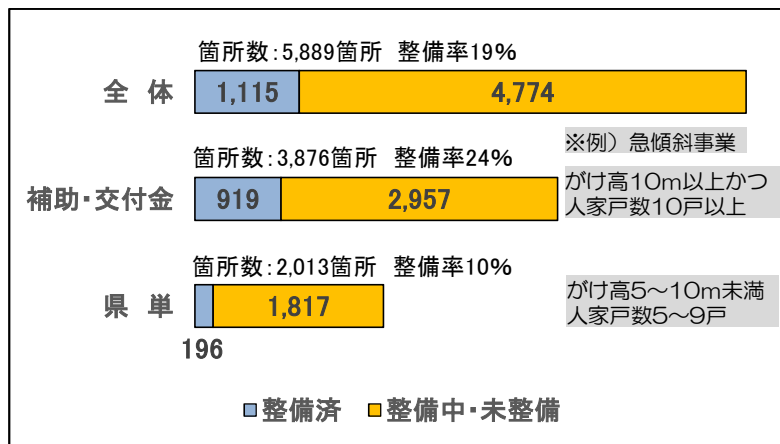
順位	県名	土砂災害危険箇所	左記のうち要対策箇所	要対策箇所整備率(%)
1	広島	31,987	10,550	32
2	島根	22,296	5,889	19
3	山口	22,248	6,221	23
4	兵庫	20,748	9,280	19
5	大分	19,640	6,719	27
	全国	525,307	193,877	23



補助・交付金の採択にならない箇所の整備は遅れている

令和2年8月隠岐豪雨 砂防堰堤の整備効果により被害軽減！

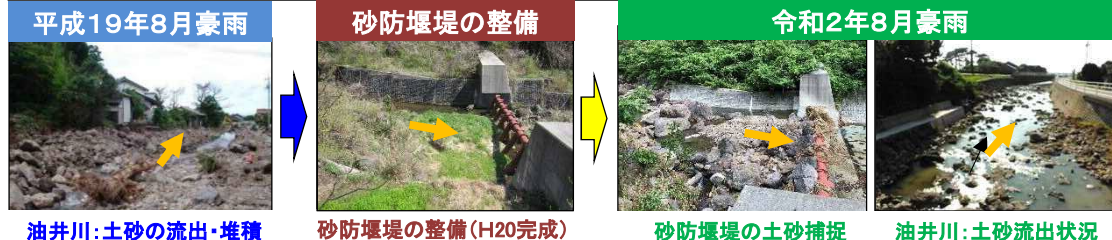
土砂災害要対策箇所 整備状況



●平成19年8月豪雨(204mm/12h雨量)では、油井川下流で土砂・洪水氾濫が発生。(浸水家屋 7戸: 床上5、床下2)

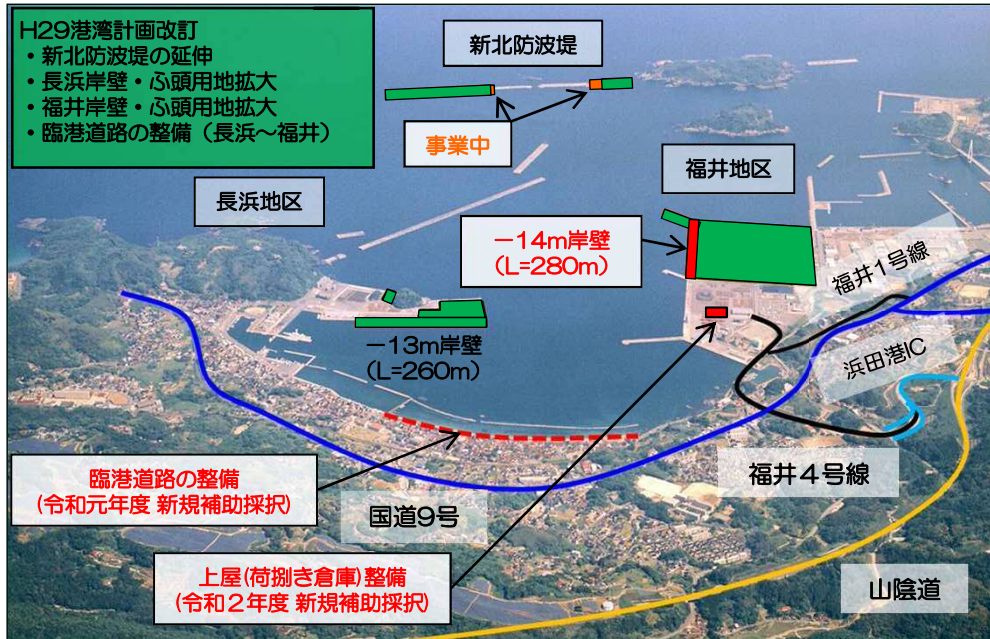
砂防堰堤の整備

●令和2年8月の豪雨(237mm/12h雨量)が発生。砂防堰堤が上流から流出した土砂を捕捉し下流の浸水を軽減。(浸水家屋 1戸: 床下) ※総雨量: 那久観測所



5. 浜田港の機能強化

- ◆ 荒天時における港湾稼働率の向上を図るため、「新北防波堤」の整備を推進すること
- ◆ 港湾計画に盛り込まれた福井地区-14m岸壁の早期事業化を図ること
- ◆ 福井地区上屋(荷捌き倉庫)及び臨港道路「福井・長浜線」の整備が着実に進められるよう、必要な予算を配分すること



新北防波堤の整備効果

○ 荷役稼働日数の増

整備前

約300日/年



整備後

約350日/年



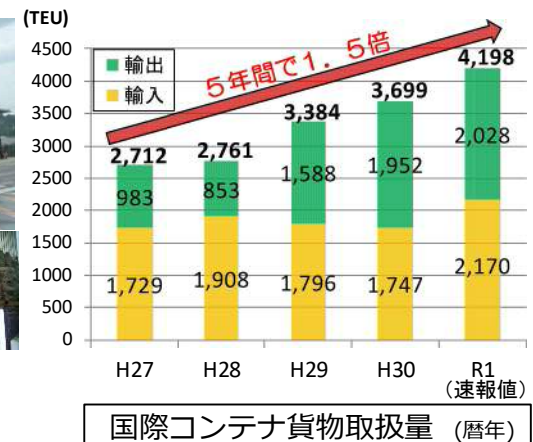
原木船の
着岸状況



平成30年度に県で整備した
ガントリークレーン



福井地区の上屋
(荷揚げ倉庫) の状況



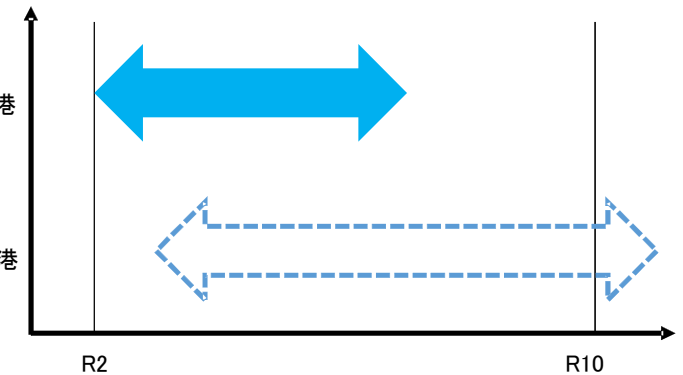
6. 県内3空港の安全で安定的な運航の確保

- ◆ 県内3空港の航空灯火の更新、および滑走路舗装の改良を着実に進められるよう必要な予算を配分すること。

- 舗装の劣化が進み、ひび割れが多数発生
- 滑走路、誘導路、エプロン等に設置されている航空灯火は、LED製品が開発され、現行製品の部品製造が中止され始めており、今後約10年のうちに供給が停止されることが見込まれている
- 出雲空港及び石見空港の航空灯火は耐用年数を超過



舗装改良及び航空灯火LED化整備スケジュール



基本施設点検実施状況(航空灯火)



出雲空港

航空灯火劣化状況



出雲空港

基本施設点検実施状況(滑走路)



石見空港

滑走路ひび割れ発生状況



石見空港

『島根創生』のために、陸（高速道路）・海（港湾）・空（空港）の充実を！

羽田空港発着枠の 地方航空路線への特別な配慮

【要望事項】

○代替高速交通機関が未整備である地域に対しては、特別な配慮をすること。

【地元の利用促進の取組】

(1) 都市と地方の補完関係の構築

- ・地域資源を活かしたワーケーション環境の整備
- ・首都圏人材による地域の課題解決と旅行を組み合わせた商品の造成

(2) 官民連携による需要の創出

- ・民間主体の利用促進に向けたプランコンテストの開催
- ・経済・教育・福祉分野での都市間交流の推進による人の流れ創出



ワーケーション環境整備に向けた勉強会



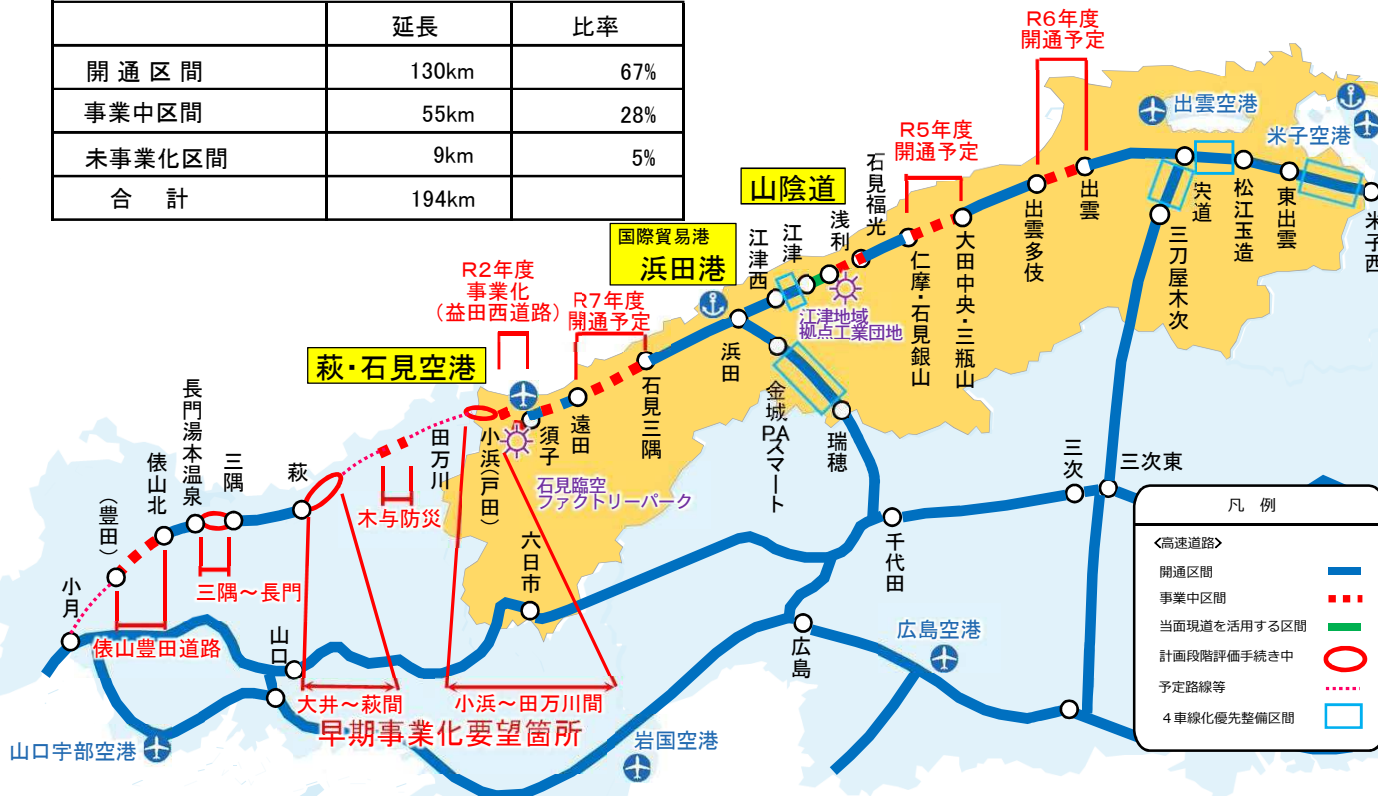
都市間交流で生まれた新たな往来（就労体験）

高速道路整備の推進

【要望事項】

○事業中区間の早期完成と「益田～萩間」の早期事業化

	延長	比率
開通区間	130km	67%
事業中区間	55km	28%
未事業化区間	9km	5%
合計	194km	



凡例	
＜高速道路＞	
開通区間	— (Blue line)
事業中区間	- - - (Red line)
当面現道を活用する区間	— (Green line)
計画段階評価手続き中	○ (Orange circle)
予定路線等	⋯⋯ (Dotted line)
4車線化優先整備区間	□ (Blue square)

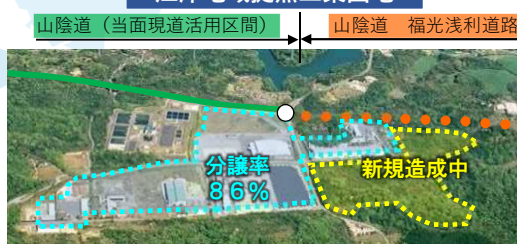
浜田港の機能強化

【要望事項】

- ① 荒天時における港湾稼働率の向上を図るため、「新北防波堤」の整備を推進すること
- ② 港湾計画に盛り込まれた福井地区 -14m岸壁の早期事業化を図ること
- ③ 福井地区上屋（荷捌き倉庫）及び臨港道路「福井・長浜線」の整備が着実に進められるよう、必要な予算を配分すること



江津地域拠点工業団地



山陰道の開通も見据え、工場用地を1.5倍に拡大造成

大規模災害時の代替路としての山陰道



「H30年7月豪雨」被災した中国道・山陽道から迂回した大型トラックで一般道が渋滞